



肝臓の硬さ(線維化)の程度を簡単に測定できる装置を導入しました

肝炎ウイルス等により肝臓が炎症を起こすと肝細胞が壊れ、その傷跡に線維が徐々に広がって慢性肝炎から肝硬変へと病気が進んでいき肝臓全体が硬くなります。この線維化の程度を知ることが肝臓病診療においては極めて重要です。

C型肝炎の場合は、線維化が進むほど肝細胞癌の発生頻度が高くなります。インターフェロン療法ではウイルスを消失させることにより発癌率を低下させることができるだけでなく、線維化のレベルも改善し肝臓の予備能も回復することがわかってきました。

B型肝炎においても、線維化の進んだ人には核酸アナログ製剤という飲み薬の内服により、線維化を改善して肝臓の予備能が回復することがわかっています。

■ これまでの検査方法

この線維化の程度を正確に知る方法は、「肝生検」といわれる直接肝臓に針を刺して組織を採取し顕微鏡でみる検査しかなく、入院して検査する以外に方法はありませんでした。

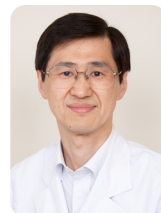
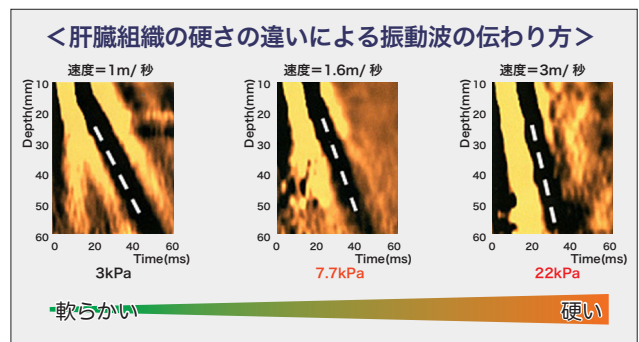
■ 今回当院で導入した「汎用超音波画像診断装置」の特長

超音波検査のような装置で、プローブ(探触子)を脇腹に当てて振動が肝臓を伝わる速度を測るものです。原理は簡単で、物質を伝わる振動波が硬い物質の中では速く、軟らかい物質の中では遅く伝わることを利用しており、肝臓の硬さをキロパスカルという単位にてその場でリアルタイムに表示します。

体を傷つけることのない非侵襲的な方法のため、入院の必要もなく外来で短時間に検査可能です。また、繰り返し測定が可能で再現性が高く、たとえば同じ人で半年後に再検査すれば、前の値と比較してこの半年で線維化が改善したのか悪化したのか、ほとんど変わらないのかの判断ができます。

■ アルコールを飲まない方も肝炎の危険があります

日本では肥満の人が増えており、脂肪肝と診断される人が急増しています。ただの脂肪肝の段階であれば減量すれば元に戻りますが、脂肪肝の人の中に、線維化が進み肝硬変や肝細胞癌になって亡くなる人がいます。このような病態を「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)」と言い、アルコールを飲まない肥満などによるただの脂肪肝だと思っていたら肝炎となって線維化が進んでいくという恐ろしい病気です。NASHは通常の検査では分からず診断には肝生検が必要でしたが、今後は脂肪肝の人を「汎用超音波画像診断装置」で定期的に検査することにより、NASHを早期診断できるようになるのではないかと期待されています。



院長代理・診療部長

三上 繁

社団法人日本肝臓学会東部会評議員
社団法人日本肝臓学会認定肝臓専門医
東京理科大学薬学部客員教授
千葉大学1986年卒業、医学博士

肥満気味の方、肝臓が心配な方はどうぞ当院内科へご相談ください。

ご予約方法

電話予約 **04-7123-5901**

月曜日～土曜日 9:00～16:00 ただし、祝日および病院指定休診日を除く


kikkoman

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>